

**第9回菰野町手づくり  
民話絵本コンクール2024  
最優秀作品**

# たっくんとゆかちゃん

さく. まつおか ゆか



BGM  
「ちいさないっぽ」

作 曲 松岡由香  
二胡演奏 松岡由香

むかしね、おきやくさまようの  
おぜんや おわんを かしてくれる  
きつねさんが いたのですって。





「ああ いそがしい いそがしい。」

おハナさんは あさから おおいそがし。

きょうは、ひがしの けんぞうさんちの  
むすこさんの けっこんしき。  
おいわいの おせきでつかう おぜんや おわんや  
おさらなどを、かしたす じゅんびをしています。

「たっくん、いっしょに はこんで ちょうだい。」

「は〜い。」

おかあさんの よびかけに、  
たっくんは げんきに へんじをしました。

おてつだいが だいすきな たっくんです。

こうして いりぐちのところに はこんでくと、  
あとで しなものを とりにきて くれます。





たっくんは そのおぜんを みながら おもいました。

「きれいだなあ。 ぴかぴかしてる。  
あの おぜんに ぼくの たからものの いしを のせたら、  
すてきだろうな。  
すぐに かえすから ちょっとだけ かりちゃおうっと。」

ないしょで ひとつ かかえました。



さて、こちらは ひがしの けんぞうさんの おうちです。  
よいいしてもらった おぜんや おわんは もう はこんで  
きました。

おとなりの おにいちゃんのおしきの おてつだいのために、  
おかあさんに つれられてきた ゆかちゃんですが、  
いそがしくて だれも あいてを してくれません。

そのとき、てーぶるのうえの きれいな おさらが  
めに とりました。

「このおさら おままごとに つかおうっと。」

ゆかちゃんは、こっそり いちまい  
てに とりました。



みつからないように。  
そーっと そーっと。



みつからないように。  
そーっと そーっと。





みつからないように。  
そーっと そーっと。

みつからないように。  
そーっと そーっと。





どしん！！

あっ！！ きゃっ！！

がっしやーん！！



あああああーーーー！！

だいじな おぜんが！  
だいじな おさがが！

どうしよう……。

そのとき、  
「たっく～ん。」  
「ゆかちゃ～ん。」  
おかあさんたちの こえが きこえました。

「ここに いたのね。  
すがたが みえないから しんぱいしたのよ。」

「あらっ！」

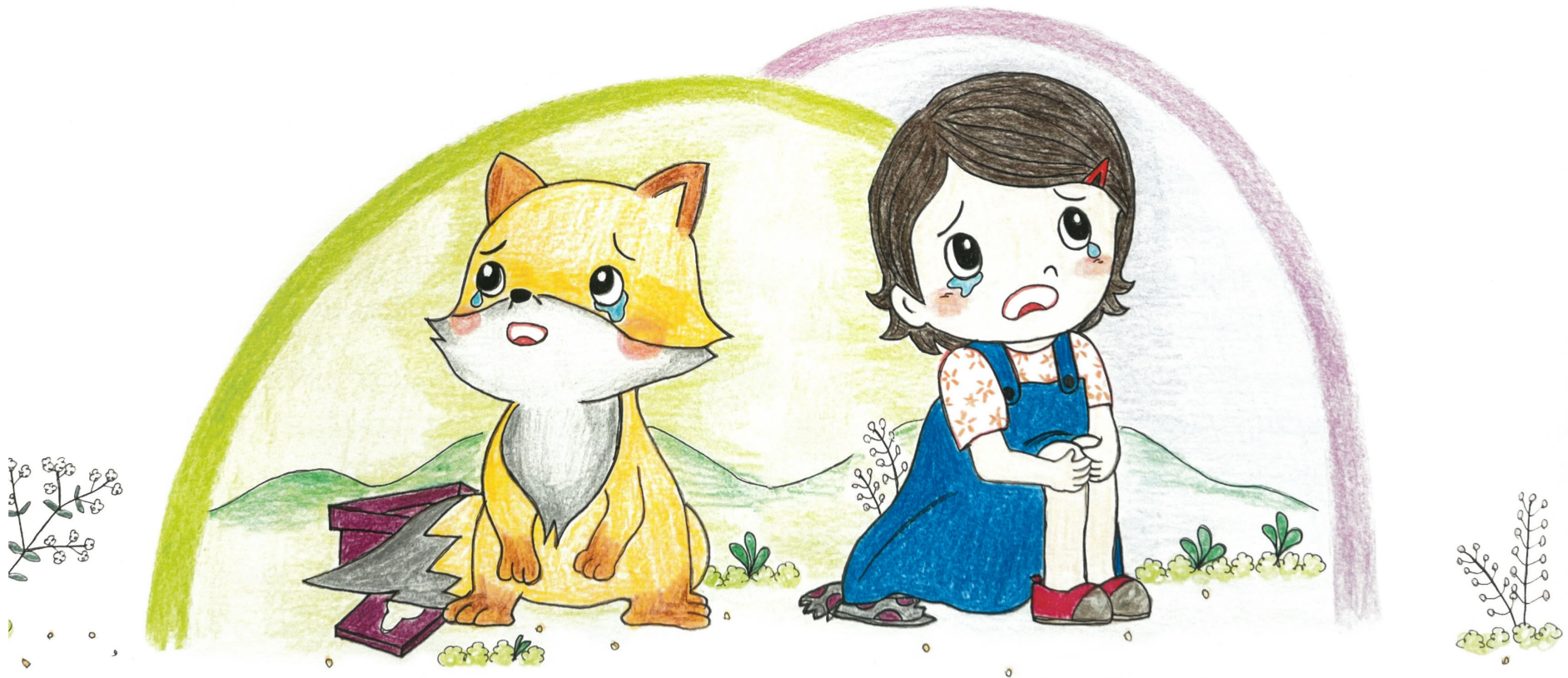




「おかあさん・・・、  
ぼくね、すぐに かえす つもりだったんだ。  
これ・・・、 こわれちゃった。  
ほんとに ごめんなさい。」

「おかあさん、ごめんなさい。  
かってに もってきちゃって ごめんなさい。  
おさら われちゃって ごめんなさい。」

たっくんと ゆかちゃんの めに、  
なみだが あふれてきました。



おかあさんたちは かおを みあわせました。

しばらくして たっくんの おかあさんが、  
ゆかちゃんに こえをかけました。

「ゆかちゃん、 かけたおさらはね、  
〈きんつぎ〉といって、きれいになおす ほうほうが あるの。  
だから、もう なかないで。」

ゆかちゃんの おかあさんが、おハナ<sup>はな</sup>さんに いいました。

「だいじな おさらを むすめが わってしまって  
ごめんさい。 その こわれた おぜんは、  
ぜひ わたしに なおさせて ください。」

じつは ゆかちゃんの おかあさんは、  
だいくしごとが とくいだったのです。





すうじつご、たっくんの おうちを たずねる ゆかちゃんの  
すがたが ありました。

「たっくん、おぜん なおしてもらったよ。」  
「ゆかちゃん、おさらも ちゃんと くつついたよ。」

こわしてしまったことは かなしくて ざんねんだったけど、  
だいじに つかうということは ころろに ちゃんと  
のこったよね。

そして いまでも きつと、ふたりは ともだち。



\* \* \* \* \*

町から嫁いた私は、食器棚の食器以外に段ボールにぎっしり入ったお茶碗、お椀、湯のみやお皿の数々と、親戚中が集まる機会の多さに驚き、準備の大変さも知りました。昔は 近所所で共有するそれらがあつて、今もなお保管されているとも聞いています。

今回、きつねのたつくと友だちになりたいと思った私は、その相手役に自分を起用し、『いつか自分が主人公として登場する絵本を描いてみたい』という願いを叶えました。完成するには その出来事があたかも自分の記憶として 潜在意識の中にすり込まれてしまったような感覚になり、不思議に心があたたかくなるのでした。

そして、子どもたちの気持ちをまずは受け止め、あえて叱らないお母さんたち。こうありたかった理想の母親像です。現実はなかなかそのようにはいかない子育てでしたけどね。

バイパスの下にひっそりとたたずむ『貸し出しやさん』。  
ここを車で通るたびに、ともだちたっくんに 思いを馳せる私がいいます。





★ たっくんとゆかちゃん ★

令和6年 8月31日

発行者 まっおかゆか

発行所 三重郡菰野町



